

KSKP サロン・あべの

NO. 58



ファッションショー出演の初体験を語る
左から 山本さん・浜本氏・永広氏

ファッションショー「これから・・・」 思い出もう一度

一九九一年四月二〇日発行（毎日発行）KSKP通巻一六〇二号一九八四年八月二〇日第三種郵便認可
発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪府東成区中本1-3-6・ベルビュール森ノ宮207

冷たい春雨がふる平成三年三月十六日（土）午後一時～四時、育徳コミュニティセンター二階研修室でハサロン・あべのV三月の集いを持った。

昨年十月二二日、大阪ビジネスパークにあるMIDシアターに於て、ニットファッションデザイナーのあいか彩子氏が肢体障害者の為のファッションショー「これから・・・」を開催された。その時の各テレビ局のニュース報道とファッションショーが収録されたビデオをあいか氏よりいただいたので、これを観ながらその時モデルとして出演された浜本浩喜氏・永広和士氏を迎え、山本篤江さんをお交えてショーの楽屋話やご苦労話を伺った。

モデルとして出演した障害者は、十三人。九月十七日にファッションブラザで、初顔合わせをした。その後、全員でのファッションショーの練習はなく、当日早朝より通し稽古をした。化粧をしてもらったり、服を着たり、出演の順番を覚えたりと、目の回る忙しさの中で、午後の開演時間を迎えた。化粧も着付けも専門学校の人がボランティアで参加してお手伝いされ、一人前のモデルとして仕立上げられた。それをあいか氏が一人ひとりチェックされてから舞台へ登場。きらめく光の中、軽やかなリズムに乗って余裕を持って動きまわっていた、と見えたが、当人は緊張して頭の中は真白。なにがなんだか解らない内にショーが終ってしまい、万来の拍手に包まれていたと言う。自分が身に着けた服のデザインや工夫されて着やすくなっている箇所等が解ったが、自分以外のこと

は目に入らず解らなかった。それに、ショー全体の流れも内容も全く解らなかった。

モデルとして出演した経緯や動機は各々違ってはいるが、三人三様に出演して良い体験が出来たという。

今迄の障害者向けと言われていた物は実用本位であったが、今回の作品はファッション性、ブラス着易さが加味されており、洋服に組入れられた工夫個所等はデザインのポイントになっていた。目立たないよう隠されていた。その想いの中に、遊び心がふんだんに盛り込まれていて、最たる物がフィナーレのディスプレイの中で着た衣装。「ハデ」を身にまとい、軽快なディスプレイ音楽に乗って舞台せましと踊り回り、客席と一体になって楽しむことができた。

この時の爽快さが忘れられなくて、車椅子で入れるディスプレイを探し、遊ぶ所を開拓された

も聞く。

障害者の生活の中にファッション性を取り入れられた今回のショーのビデオを観て、参加者から「おしゃれ」や「ファッション」について色々なおもしろい述べられた。

○障害者だけでなく、老人もファッション性が無いと感じる。個性が取り入れられた明るい物があれば良い。

○年齢に関係なく、見た目に気持ちよい「おしゃれ」をした。今は七〇才の人(女性)でもお化粧をしている。実用性の高い物は、えてしてファッション性がなく暗いイメージが強い。

○「おしゃれ」はお金のかかるもの。何にポイントを置いてするかが、その人の個性となる。DCブランドでなく、メーカーブランドに凝って、トータルで品物を集めている。内容・素材が良い品物が増え

ていくのは楽しい。

○着る物や品物の「おしゃれ」は高くつくので、自分の行動に「おしゃれ」心を持ってしている。

○人と同じ事はしたくないので、車に凝っている。出初めの時にサンルーフやCDプレーヤーを付けたり・・・。

○良い物が、安く買えたらいいなあと想う。流行は追わない。機能的な物を一番に考えて、自分で選んでいる。

○少しでも若く見せたいと苦労している。香料などにはあまり興味はないが、気持ち良い状態で居りたい。

○「おしゃれ」無縁の男と想っている。カメラを趣味にしているの、レンズを通して見ると「おしゃれ」がよく解る。服装やスタイルの良い人の所へ自然にカメラが向く。「おしゃれ」は周囲を明るくする。近頃の老若男女はきれいな

った。特に中年以降の人が、きれいになった。

○汗かきなので、毎日のシャンプーを「おしゃれ」の基本にしている。

○さりげない所に目がいくような装いなり、話し方が「おしゃれ」に感じられるのが良い。季節に応じた物であったり、生活の中に自分自身のこだわりや趣味を持っていたい。等々「おしゃれ」談議に花が咲いた。参加者二名、司会は山本篤江さん。



華やかな舞台の裏側は？

河合恵子

思いがけず、ファッションショーの舞台裏を垣間みる貴重な機会を得たのは去年の十月二十三日。プロの方々と共に出演する十三名（女性は四人）の車イスを操るモデルの一人、山本篤江さんに同行したのですが、山本さんのマシオンに同ったのは午前六時五十分。公演は午後一時と四時だというのに本番前のリハーサルが八時から。後で知ったことですが山本さんの着替えを手伝って下さったボランティアの専門学校生さんは朝四時や五時起きだったそうです。全くモデルさんの生活もきびしい。

ところで会場のMIDシアターの楽屋はまるで体育館のような場所にモデル一人一人の衣装をまとめて釣ったハンガーラックが林立し、その奥にはメイクのための鏡やティール、アイロンなど用意されていて雑然としている。

この日、山本さんはあいか彩子先生デザインの約百点のうち、三点を着用。私はちよつと楽屋から客席へ。とそこはリハーサルの真最中で明るい照明にステージが照らし出され、華やいだ音楽が流れるなか、カラフルなコスチュームをまとったモデルさんが行き交う夢の世界。出演者はこの光景を実際に見ることはないのだから、などと感じているとあいか先生と舞台プロデュースの浜野氏がモデルの動きやドレスの機能性の表現法などてきばきと指示されている。また、すでにテレビ局や新聞社のたくさんのカメラマンが舞台を取り囲んでいる。

本番になるとひとつのステージが終わっても余韻にひたっている間もなく、次の衣装に着替えなくてはならない。まったく慌ただしい。というのに限られた時間内にそれぞれの衣装に異なったアクセサリーや靴なども付けないといけないから。でも、おしゃれでかわいくて機能を工夫したファッション。それは車イスを駆使したスピーディーでパワフルな舞台で十分に表現されていたと思う。すぐれたスタッフを擁し

たあいか先生の「これから・・・」のファッションショーを楽しみにしています。

おしゃれの心がけ

中野 君 江

春には珍しい冷雨、月に一度のふれあいをたのしみにしているのに、雨だなんて…神様も意地の悪いお方と思いつつも、この月のテーマに魅せられて出席する。

去年十月二二日あいか彩子さんの障害者の為のファッションショーが開かれた。障害や、年代は違ってもやはり女性である以上、ファッションに関心が深く当日会場に行ってみた。久し振りの外出、満員の観客に興奮する。カクテルライトの中、車椅子がおどり舞い、音楽の中で次々と演じられる障害者のファッションと言う事に何の疑問も感じられない。普通のスタイル、色彩のカラフルな事、あいか先生の苦心の作りが見られる。障害者と言っても、一人一人障害箇所が異なり、着用の仕方も様々。私

も障害があるからこそ、年より少し派手目でさっぱりしたものを選ぶ様には、心掛けているけれど、中々身につくものが見当らない。第一セーターのかぶりがだめ、前あき、前あきと捜す。前あきのかわいい、ブラウスがあったと思ったら、又してもM寸、これでは、おしゃれどころではない。L寸で前あきとなるとスタイルも限定されてしまふ。身に合って気がむくと何時も同じもので毎日をすごす。洋服に体を合わせるのか、体に洋服を合わせるかわからない。おしゃれ心も中々むずかしいもの。サロンに出かける時も朝から、その服を着て家事をする。脱いだり着たりが大変で時間の無駄、その点、サロンの集りには、一向に服装を見くらべる事がないので大助かり、気楽に出席出来るのが何より、とつてもたのしく一ヶ月振りの出会いに、元気な顔ぶれにホッと

する。

二月のサロンの集いで、これからのサロンについて皆様方の意見が沢山出てたのしかった。障害のため、外出や旅行など夢はもっているけれど、軽い障害の方々なら良いけれど、ボランティアの方々のお世話がたいへんな事、又企画して下さる方々の大

変なことを考えざるを得ない。市内の公園とか見学出来る所でも出掛けられたら私はうれしい。サロンも五年を過ぎ、ますます沢山な方々のふれあいを望むと共に、運営して下さって居ります皆様方、これからもよろしくお願い致します。

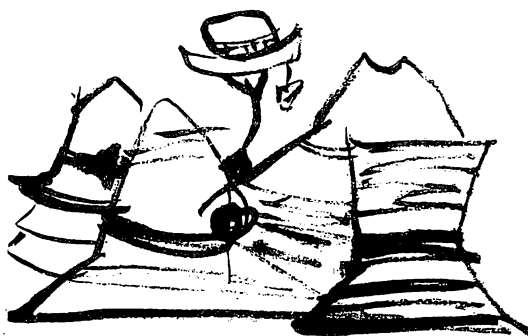
ファッションショーから
始まるもの

永 広 和 士

皆さん、お元気ですか。私は、ハサロンのあべのVに投稿するのは初めてですが、しばらくの間お付き合い下さい。

そもそも私が、ファッションショーに参加するきっかけとなったのは、応援センターの機関誌を読んで面白そうだなあーと感じ、何か変わった事にチャレンジしてみようと思ったからです。

もちろん、あいかさんの事は知りませんでしたし、ファッションに付いてもそれ程関心があった訳ではありません。フォーマルな服装をして、難波や梅田へ、土曜・祭日に彼女とドライブなどとシャレた一時を



経験した事もなく、着替えのしやすい地味な服装で地元周辺の街にせっせと出かけて遊んでいたと言う日々でした。ただこの状態に満足していたのではありませんが、何か変化をもたらす為の努力や行動を積極的にして来なかつたのです。

私の場合、この様な生活を変えるきっかけとして、思い切った行動をしようと参加の申し出をしたのです。他のメンバーは、

あいかさんのスカウトで、初めて顔合わせをしたのは、一回目のリハーサルの時でした。今思えばこの瞬間とショーの本番を迎えた時の不安と興奮は、大変印象に残っています。どんな人と出会い、何処までうち解けていけるか、みんなはどんな思いで参加しているのか、最後まで無事に終える事が出来るのか、観て下さった人達にはどんな印象を与え、どんな感想をもったのか……。ステージで着る衣装よりも、出演する各々のシーンで陽気に明るくリズムカルな雰囲気で会場の皆さんも一緒に楽しんでんでもらえればと、心の中で願っていたのですが。残念ながら実際には思った通りに行かず、最後まで緊張とプレッシャーか



ら硬直した表情と愛想のない動作でステージの上を回るのが精一杯という情けないモデル役となってしまったのです……。

いやはや、石頭の僕らしい舞台でした。それでも参加させていただけただけの幸運で、

友達も幾人か出来ましたし、ほんの少し勇氣と力を養え、心の持ちよりの変化も起こっています。しかし、良い事はかりではなく、ショーの閉幕から今日まで同じステージに上ったメンバーとは、みんな（車椅子の出演者全員）で飲んだり話したりといったうち解けた集りもなく、各々の生活環境の中で日々の営みを過しています。賑いも過ぎてしまえば何事も無かったかの様に静かで、過去の出来事が忘れ去られています。ショーは終って見たものの、一人一人の

心の中に各々の立場で今回の経験を通過して思っている事がある善なのに、何等かの話合いの場を持たない今の状況は大変寂しい気がします。私は今回のショーが単なる催し物であるとは考えていません。地道な活動と、人との関わりの中で人間として生かされている自分自身を見つめ、生き方や考え方を行動を通じて広めて行く、一つの方法として参加しました。この経験は私にと

って、これからの自分を考える上で貴重な場であったと思います。

さて、皆さんはショーに付いてどんな感想をお持ちでしょうか？。中には痛烈な批判もあり、あるいは反対に感激したとか様々な意見をお伺い出来る事と思います。実際にショーをご覧になった方の中には、こんな催し物ができる様になったのかと新たな関心で認識を持った人も居られるだろうし、心の励みとして意識改革をしようとか、勇氣を出してこれまでとは違った服装で街へ出て見よう等々、ショーを見て下さった人達の認識も変わったのではないのでしょうか？！。少しでも自分にとってプラスになれば、ショーを行った意義があると思います。

今回ファッションショーを通過して社会に對するアピールと、オシャレな服装で気軽にもっと街へ出て、今の自分を徐々に変えて人との出会いと交流を積極的に行えば、輝ける自分自身をきっと発見出来る。この行動と努力が今の我々に必要ではないかと思うのですが、皆さんはどの様に感じましたか？。

けれども、私はショーに参加する事より

も、むしろ観てもらって色々と感じていただいた方が良く思っています。例えば、出演者として参加しても、終わった後につまらない考えや思いの為に自分が何故ショーに出たのか、何を理解して欲しかったのかといった前向きな姿勢を無くしては、経験を通じて苦労しても生かされた者として得る事は出来ません。目の前にあるチャンスを生かすも殺すも自分次第で、後でシコリを残すくらいなら参加しなければいい、自分の持てる範囲で自覚と責任を持って真剣に取り組む事が一番大切な心構えではないでしょうか？。自分の行いを人に観てもらおう以上失敗を恐れずに信じる所を前向きに、時には修正をしながら、夢と希望を持って歩む事で人に感激を与えられると思うのです。観る側も参加する側も各々に役割があり、必ず何かの形で社会に対する影響を与える事が出来ますし、大袈裟で複雑な問題を抱かえるのではなく、単純でも地道な活動を通じて、一つ一つの努力が積み重なる事によって、広く深く社会への理解を開いて行けると信じています。

以上で私の原稿を終わります。ご意見ご感想があれば、遠慮なくお聞かせ下さい。

ホンマのおしゃれ

柿岡 緑

桜の便りも聞かれる頃となりました。漂う花の香りに乗って私達も華やかになりたいものです。

ハンディを持った人にファッションデザインをお考え下さる「あいか彩子先生」「森南海子先生」方の温かい思いやりを感じ、私達もハッスルしておしゃれを楽しみたいものです。

ファッショナブルな色彩とデザイン、セクシーな装いで街に出る、春風のように。その上、脱ぎ着が楽に出来ると思うと心もイキイキして来ます。障害にこだわらず、爽やかに生活したいものです。

又、一方では、カラフルであっても、本人が嬉しくなければ美しくないと思いますがたとえ一つのブローチ、又はポーなどをあしらっただけでもウキウキ満足していればよいのではないのでしょうか。

心もおしゃれに、装いもおしゃれに、これがホンマのオシャレか、と・・・



おしらせ

五月の出会い

日時 平成三年 五月十八日(土)

午後一時～四時

場所 育徳コミュニティセンター

二階研修室(スロープ・車イス

イレ有り)「大阪市阿倍野区阪南

町五-十五-二八」

内容 「障害者の教育と自立」

パネラー 府立堺養護学校高等部

嘉戸敏之氏

会費 なし。

問い合わせ TEL 06-691-1028 (富田慶子)

差別意識について

岡 知史

学生時代、興味をもった問題がひとつあった。それは、一人の個人において、差別に反対する意識は、その問題にかかわらず普遍的なものであるのかどうか、ということだった。いいかえれば、例えば障害者差別に反対している人は、女性差別や民族差別など他の差別にも反対しているのかということである。

これは差別に反対する根拠にかかわる問題だ。つまり障害者差別に反対する人は、どういう理由で反対するのか。それが「障害などという一つの人間の側面によって普遍的な人間の価値が損なわれるものではなく人間は絶対的に平等なのだ」という意識からくる姿勢なら、その人は同時に他の差別にも反対するはずである。

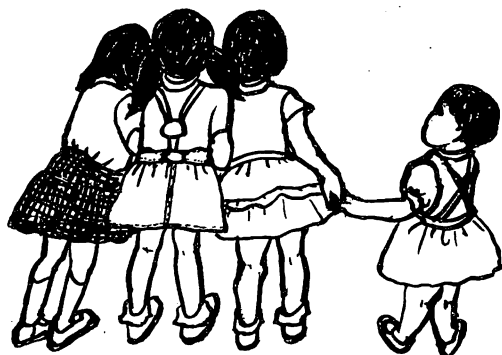
そういう関心をもちながら、もう十年以上、障害者差別や女性差別、民族差別に反対する人たちを見てきた。しかし残念ながら失望することが多かった。一つの問題に對して差別反対を言いながら、他の問題に對しては、ごく「普通の人」と同じように偏見と差別意識をもち、しかもそれに気づいていない。特定の人々に対して抑圧的な社会を批判し、無関心な大衆を攻撃しながら、一方では自分もまた他の差別に加担している人が多いのである。

障害者解放運動をもう何十年も続けているが、女性の人格を尊重していない。あるいは外国人に対する偏見を口にして平気である。人権を毎日のように唱えている立場にいながら差別部落の人や精神障害をもつ人を深く傷つけるような言葉を使う、それが被差別者そのものを意味するのでなければ使ってもかまわないという調子なのである。

ぼくは、ふだんから尊敬している人の口からも、そんな言葉を聞いてしまうと、本当に混乱してしまう。あの人が言っていることは本心なのだろうか、本当に差別に反対しているのか。なぜ一つの差別に反対しながら、他の差別に気がつかないのか。

しかし、いまはこう考えている。普遍的な差別反対の意識などというものは、人間にはもてないものではないかと。人間「人間を愛する」といながらも、「人間一般」を愛するなどということはできるはずがなく、できることは、一人一人の人間を愛することだけである。それと同じように「人間を差別しない」とは言っても、「人間一般」を差別しないなどということではできないはずがなく、できるのは、一人一人の人間を差別しないということだけなのである。抽象的な「人間平等」「差別反対」とい

う言葉は、法律の言葉ならともかく、現実の人間の意識や生活には何の影響も与えないと思う。だから、こういう「言葉」の上で成り立っているような職業、例えば、多くのように社会福祉を教えている教員であったり、社会福祉の実践者であったり、運動団体の職員であったりするような人は、言ってみれば、ありもしない「橋」の上で仕事をしているようなものだ。職業でなくてもボランティアとして、福祉的な運動をしている人にも同じことが言える。自分の中の差別意識や偏見は一夜の決心で捨てられるものではない。そのためには薄いが無限に重層している壁を内側から穿(うが)つように、出会った一人一人の人間を受け入れ、心を開きながら、その人の「生きた被差別体験」から学んでいくしかないのだと思う。



ナンペイの

ひとつとふたつと。

月田 秀子コンサートを終えて

三月二四日、日本ではまだまだ馴染みの薄いリファドリを歌う月田秀子さんのコンサートを開く事ができた。主催したのは、

私がこの「サロン・あべの」とは別に参加して、これまでも「サロン・あべの」のみなさんにいろいろと協力していただきてきている「なんでもサロン・ハンズ」。

ところでリファドリというポルトガルの民衆の心を語る音楽を、私をはじめて耳にしたのはそれほど古いことではない。二年になるかならないか、その位の物なのである。それも、特別最初から興味をもっていった訳でもなく、全く誘われるままにライブを聞かせてもらった、という具合だった。

そんな出会いとその後の短い時間にも係わらず、すっかりリファドリと月田さんの

魅力にひかれて、いろいろなところへコンサートやライブを聞きに行き、そうこうしているうちに「いつか自分自身でこんなコンサートを企画してやってみたい」と思うようになった。

今思えば、随分無鉄砲なことだったが、なにより幸運だったことは、私をはじめてライブに誘ってくれた方が、わが家から歩いて十分ほどのところで喫茶店を開いておられて、またその方と月田さんが以前からの知り合い、加えてギダリストの方も極

近所に住まわれているという具合で、コミユニケーションをとってやっていくには好条件が揃っていて、コンサート実現へのスタートは思いのほかスムーズだった。更に「ハンズ」を手伝ってくれている健常者のOさんも、これ又ご近所ということ、まさに「地域でつくるコンサート」という感じになっていった。

そんな中で、一番頭を悩ましたのが会場探し。結局はナンバの吉本会館にあるビアホールを借り切つてすることにしたが、車椅子トイレがはなれた所にしか無かったり柱が邪魔になりよく見えなかった方々が多くおられたことが、とても申し訳なく反省している。

そのほかにも不備な点が多くて、今回のコンサートに「合格点」が戴けるかどうかとても自身はないが、一三〇人を越える方々に参加して戴けたことと、「サロン・あべの」をはじめたくさんの人々に協力をねがえたことに意を強くして、これから一人ひとりではやれない事、体験出来ない事」を企画し、そしてみなさんと創り上げて行きたいと考えている。

みなさん ほんとうに有難うございました。

南光龍平



美智子のこんな話



岸田 美智子

良い本に出会いましたよ

何かと忙しくて、落ち着いて本が読めない日々を過していますが、最近、とても虜になり読みすすんでる本が有ります。

「生の技法」(藤原書店発行)という本で、内容はリ家と施設を出て暮らす障害者の社会学リです。

私がこの本を読みたいと思ったのは、まず、その「生の技法」という言葉にひかれ、またし、重度障害者の生活全般をこまごまでまとめ上げ、そして、社会学として分析している新しい新鮮な視点が、今の私にはとても頭の整理になり勉強にもなると思っ

たからです。それに著者の一人である、女性障害者でありピアカウンセラーの安積(あさか)純子さんとは友達であり、時々大阪に來たりして付き合いが有るので、彼女との関係もこの本を買うきっかけになったと思います。

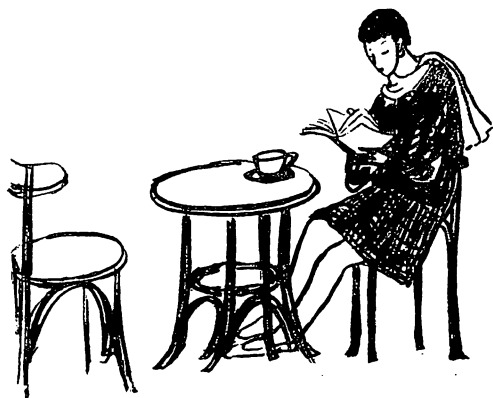
介助関係への模索のページでは、その対処方法を三つに分析しています。

考えかたの関係でのつながり——理念的な方法。有償などのお金のやり取りが絡む関係——経済的方法。とにかく仲良くなってしまう関係——感情的方法。の三つが詳しく書かれています。地域の人々からの色々なまなざしが、与える影響も分析されています。

そして、今までになかった新しい視点や考え方が随所に出てくるのですが、思わず納得してしまいます。例えば「彼らは、家庭から、施設から出てきた。彼らが出てきたこの場所はどのようなものか。そこに私達は、何か不足しているというよりは、むしろ何か過剰であることを認めた。もちろん、不足しているものがないわけではない。何もかも不足している。だがそれ

は何度も語られ、分析されてきた。私達が受け取るべきことは、不足を解消しても、解決されない問題が残るということである。——略——過剰であるもの、それは家庭においては愛情という制度であり、施設においては福祉的配慮という……」などと書かれています。

皆さんも二五〇〇円と少し高いけど読んでみてはいかがでしょう！



あっちゃんのシングルライフ

3

山本 篤 江

歯車の一つが回りだすと今まで、どんな事をしてもしも動きださなかったものでも、一人歩きするものなのですね！。

と、言うのは、前回もお話したように、いくら私が一人で生活をしてみたいと言っても、頑として耳を貸さそうとしなかった両親（特に母親）でしたのに、母親から「自分達も歳だし、体力も力もだんだん無くなってくるし、以前から言っていたことでもあるので、凄く心配だけど一度独立してやってみてはどうかしら。どうしても駄目だったら、その時帰ってきたら…」と言いついてくれました。そして、父親には事あるたびに自立の事を言い続けてくれました。それから、私は、家を堂々（以前から探っていたのですが）と探し始めました。でも、動きだす時期が来たと言っても条件とか、何やかやで適当な家は仲々見付かりませんでした。条件が合わなくて一度断れば、二回三回と足を運んでも、もう相手



にしてくれませんか。そんなことを何回か繰り返し、やっとこれ以上の所は無という場所が今の所です。住む所が決れば、文字通りとんとん拍子でした。ボランテニアさんのこと、お風呂の事、その他諸々の事が面白いようにはかどっていききました。

ルンルン。。。でも、片一方では・・・

皆様に「ありがとう」

古川 克 代

今から約十年前、歌を歌うことを職としていた私に、障害者の方の作曲をという話があり、私が選んだ詩を作られたのが、偶然富田さんだったことから、『サロンあべの』を毎月読ませて戴く現在に至っているのです。

一旦は郷里に戻ったものの再び大阪に舞い戻り、ワープロに昼も夜も向かうというハードな仕事を続ける日常にくじけそうになる度に、富田さんや皆様の頑張っておられる姿を伺い知るに至って、何度も励まされて、私なりに納得のいくお仕事が続けて来れました。

あと数日で郷里に帰ってしまう私に、また違う人生が待ち受けています。きっと挫折感を味わうこともあるでしょうが『サロンあべの』に励まして戴いたことを忘れず歩いて行きたいと思っています。



ハガキ「青い鳥」が二種類に

毎年、福祉はがき「青い鳥」が郵便局から配布されますが、今年からは「普通はがき」と「盲人用はがき」切り込み入り「二種類」が出ました。

郵便局で申し込む時（身体障害者手帳一級・二級の対象・代理人でもよい）に、どちらかを申し出れば希望の物が受取れます。期間は四月二日～五月三十日迄。もよりの郵便局で受け付けています。



タクシー料金一割引きについて

この度のタクシー料金値上げに際して、大阪府内で身体障害者手帳（一～六級）を所持している人に、乗車料金の一割が割引かれることになりました。

●身体障害者割引適用者。

身体障害者手帳だけの人は、タクシーに乗車した時、身体障害者手帳を提示し、割引申し込み書に必要事項を記入して渡せば乗車料金の約一割が割引されます。

十円未満切捨て

●身体障害者割引とタクシー利用券併用者。

タクシーに乗車した時、身体障害者手帳を見せて、乗務員より割引申し込み書を受取り必要事項を記入し、乗車料金を支払う時にタクシー利用券と一緒



に渡して、乗車料金の九割からタクシーの基本料金（大型五〇〇円・中型四八〇円・小型四六〇円）を差し引いた金額を利用者が支払います。

*タクシー利用券一枚は初乗り料金（大型五六〇円・中型五四〇円・小型五二〇円）に相当しますが、割引適用者は一割引きの料金になります。

○詳しいことは、各地域の福祉事務所へお問い合わせ下さい。



—盲大バレーボール大会

「走ろう歌おう大運動会実行委員会」(略称・走歌)では、視覚障害者と健常者との交流をはかる為、以下の要領で盲大バレーボール大会を開催いたしますので、皆様ふるってご参加下さい。

記

日時；4月29日(祝)

15時～18時

場所；長居身体障害者スポーツセンター体育館

用意する物；体育館シューズ
(屋内用運動グツ)

参加申込先；乾 純一

伊丹市南本町1-2-27

TEL.0727-72-1505.

尚、「走歌」では6月2日の大運動会(於 都島小学校)に向けての実行委員と、当日参加者を募集しております。ご希望の方は併て、乾までご連絡下さい。

∞ サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました ∞

「阿倍野区ボランティア連絡協議会」の朗読グループのご協力により、サロン・あべの紙の録音テープを作っていたいただきます。バックナンバーは三九号から、五七号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。サロン紙朗読テープご希望の方は、富田までお申し出下さい。
(TEL06-691-1028)

井 感謝します 井

カンパ・冊子・お菓子・ビデオテープ・カセットテープ等、ご協力ありがとうございます。お礼を申し上げます。

三月のカンパ

金一六〇〇円

安達尚子、大岩悦子、岡 知史、大里哲子、崎本ヒサエ、神城昭子、田辺さかえ、林 三起子、東谷和代、匿名一名様。
(敬称略)

<サロン・あべの>第58号

編集：サロン・あべの 運営委員会 定価 100円

(〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028. 富田慶子)

印刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.